

2024年8月4日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第67巻第19号(通算3401号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

小さくされている人を
大切にする教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマの人々への手紙5:5)

平和聖日礼拝 (聖霊降臨節 第12主日礼拝)

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

前奏 (黙禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

招きの詞 詩編 146編 7-9節

賛美歌 21-425番「こすずめも、くじらも」(©JASRAC)

聖書 ヨハネの手紙 I 4章16節-5章5節

お祈り
賛美歌 21-371番「このこどもたちが」(©教団出版局)

メッセージ 「平和に生きる」 牛田 匡 牧師

賛美歌 21-418番「キリストのしもべたちよ」(©教団讃美歌委員会)

聖餐 牛田 匡 牧師

共同のお祈りと、平和のあいさつ

賛美歌 21-524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

主の祈り

献げ物 (*)

派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

祝福 牛田 匡 牧師

後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讃美歌委員会)

報告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

*受付に献金箱がございます。

「献げ物 (献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

(聖書協会共同訳©日本聖書協会)

⁷ ^{しいた} 虐げられている人のために裁きを行い

飢えた人にパンを与える方。

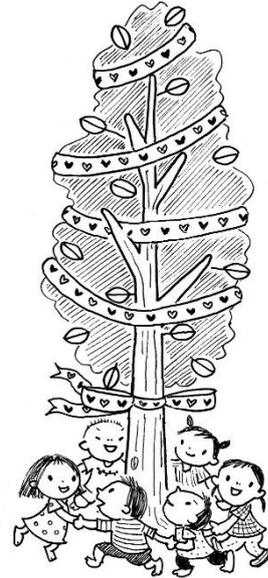
主は捕らわれ人を解き放ち

⁸ 主は見えない人の目を開き

主はうずくまる人を立ち上がらせ

主は正しき人を愛し

⁹ 主は ^{きりゆう} 寄留の者を守る。



聖書 ヨハネの手紙 I 4章16節-5章5節(聖書協会共同訳©日本聖書協会)

4 : ¹⁶ 私たちは、神が私たちに抱いておられる愛を知り、信じています。

神は愛です。愛の内にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください。 ¹⁷ このように、愛が私たちの内に全うされているので、裁きの日に私たちは確信を持つことができます。 ^a イエスが天でそうであるように、この世で私たちも、愛の内にあるのです。 ¹⁸ 愛には恐れがありません。完全な愛は、恐れを締め出します。恐れには懲らしめが伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。 ¹⁹ 私たちが愛するのは、神がまず私たちを愛してくださったからです。 ²⁰ 「神を愛している」と言いながら、自分のきょうだいを憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える自分のきょうだいを愛さない者は、目に見えない神を愛することができないからです。 ²¹ 神を愛する者は、自分のきょうだいも愛すべきです。これが、私たちが神から受けた戒めです。

5 : ¹ イエスがキリストであると信じる人は皆、神から生まれた者です。生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者をも愛します。 ^{2b} 神を愛し、その戒めを守るなら、それによって、私たちが神の子どもたちを愛していることが分かります。 ³ 神の戒めを守ること、これが神を愛することだからです。その戒めは難しいものではありません。 ⁴ 神から生まれた人は皆、世に勝つからです。世に勝つ勝利、それは私たちの信仰です。 ⁵ 世に勝つ者とは誰か。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか。

(脚注 a : 直訳「あの方がそうであるように、この世で私たちもそうである」、

b : 別訳「このことから分かるのは、私たちが神を愛し、その戒めを守るなら、神の子どもたちを愛しているということです」)

《先週のメッセージより》7月28日

「私を思い出して下さい」より

牛田匡牧師

聖書 コリントの信徒への手紙Ⅰ 11章 17-29節

「お盆」の季節には、ご先祖様に思いを馳せるといふ方もおられると思いますが、聖書の中にもイエス様が言われた「〇〇の時には、私を思い出して下さい」という言葉が記されています。それはいわゆる「最後の晩餐」の場面での言葉で、そこから教会では「主の晩餐（聖餐式）」の際に、「イエス様の死に様と生き様を思い起こす」ということを大切にしています。しかし、原点としては「パンを裂き、ぶどう酒を分け合って飲む度に」ですから、つまり「日々の食事を通して、私を思い出して下さい」と言われたのではないのでしょうか。なぜなら、イエス様の生き様というものが、まさに世から差別され見放されていた人たちと一緒に食事をして、共に生きたものだったからでした。食べるということは、生きるということと直結しています。ですから、食事を分かち合うというのは、言い換えれば命を分かち合うことであり、イエス様とその後続いた教会は、共に食べるということをととても大切にしていました。にもかかわらず、パウロの時代のコリントの教会では「一緒に食事をする」と言いながらも、早く来た人たちだけで先に食べてしまい、貧しさの故に仕事が長引き遅れて来た人たちや、食事を持参できなかった人たちが、遅刻して到着した時には既に食べる物が無いというような有様でした。パウロはそのような教会に対して、それでは共に礼拝をして、共に食事をしたことにはならない、と手紙を書き送りました。

聖書の中で、目に見えない神様は、王、勇士（戦士）、裁判官、羊飼いや、様々なイメージで表現されていますが、多様な神のイメージの一つに、「知恵」というものもあります。そしてその「知恵」は、賢い人や思慮深い人ではなく、むしろ「思慮なき者」「浅はかな者」に対して、「食卓を整えたから、こちらに来て私のパンを食べ、ぶどう酒を飲みなさい」と呼びかけます（箴言9：1-5）。「小さくされている者に対する選び」は、聖書の中で一貫している神様の視点です。命の糧の分かち合いである食事の度に、「私を思い出して下さい」と言われたイエス様の言葉を心に留め、その後に従う歩みへと、たとえ小さな一歩ずつであっても、私たちは今日もここから神様と共にあって支えられながら、押し出されながら、歩みを進めて参ります。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 7月28日

礼拝出席 大人3名 献金 大人3,000円 中継視聴者数8回 感謝
7月23日(火)に さんが羽曳野市内の病院に搬送され、現在も入院療養中
です。一日も早い回復をお祈りください。

◎次週 2024年8月11日(日) 聖霊降臨節第13主日礼拝

招きの詞 詩編 15編 1-5節

聖書 ヨハネによる福音書 7章40-52節

メッセージ 「なにか違う」水谷憲牧師

賛美歌 21-211番 (©JASRAC)、21-494番 (©JASRAC)、21-438番 (©P.D.)

◎お知らせ

- ・8月期の「教会を考える会」はお休みです。
- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」は、ホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・8月1日(木)~25日(日)にかけて、高石教会にて、平和月間特別写真展「川の記憶 ~ヒロシマ 今も忘れない~」が開催されています。入場料は無料で、どなたでもご鑑賞いただけます。開館日時は木・金・土曜日の9時から17時までで、8月16・17日は閉館です。高石教会のウェブサイトは右のQRコード。



- ・8月15日(木)17時半~19時半に東梅田教会にて、「教会と天皇制を考える」特別委員会主催の連続講座第2回「広島からキリスト教会の戦争協力、被爆、平和について考える」が開催されます。発題者は向井希夫さん(広島流川教会牧師)です。被爆、敗戦、戦後の歩みの中で、教会は、本当の意味で歴史と向かい合うことができたのでしょうか。その上で平和への歩みを始めることができればと思います。(発題者より)

東梅田教会での対面参加の他、ZOOMを利用したのオンライン参加も可能です。

オンライン参加をご希望の方は前日14日(水)までに、「教会と天皇制」を考える特別委員会の委員長にまでメールでお申込み下さい。

uccj.osaka.2.11@gmail.com



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
8/11	水谷憲牧師	
8/18	牛田匡牧師	おにぎり支援
8/25	水谷憲牧師	誕生者祝福式
9/1	牛田匡牧師	ユウカリスト・教会を考える会

「教会と天皇制」
を考える特別委員会
連続講座第2回

「広島からキリスト教会の
戦争協力、被爆、平和について考える」

発題者: 向井希夫さん
(広島流川教会牧師・元大阪教区総会議長)

1945年8月6日、広島流川教会、そして広島市内の教会は被爆しました。しかし、「8.6」は突然来たのではなく、その時へと至る歩みがありました。わずかに残された戦前の週報を見ると、「国民儀礼」、「金属回収運動に協力しましょう」、「聖戦必勝祈禱報告会開催さる」等の記述が見られます。

被爆、敗戦、戦後の歩みの中で、教会は、本当の意味で歴史と向き合うことができたのでしょうか。その上で平和への歩みを始めることができているのでしょうか。皆さまとっしょに考えることができればと思います。

関連して、わたし自身が11年間大阪教区議長を務めさせていただいたとき、「本当の意味で歴史と向き合うことができたの」かについても大阪教区の皆さまと考えることができれば幸いです。

2024年8月15日(木) 17:30-19:30
会場: 日本キリスト教団東梅田教会

参加方法: 対面およびオンライン(zoom)
zoom参加される方は「教会と天皇制」を考える特別委員会の山下社起委員長に下記のメールアドレスにお申し込みください。

アドレス: uccj.osaka.2.11@gmail.com
締切: 8/14(水)まで

主催: 「教会と天皇制」を考える特別委員会